２１世紀の日本のかたち（１４３）

道州制　関西（近畿）州
－関西（近畿）広域地方計画－

戸 沼 幸 市
＜(一財)日本開発構想研究所 顧問＞

「21世紀の日本のかたち」において、これまで日本列島を「道州制」の観点から、北海道、沖縄州、九州、中国・四国州、北陸・中部州などとし取り上げてきましたが、今回、第三次国土形成計画（全国計画、2023.7）を受けて、改めて関西（近畿）州を想定し、関西（近畿）広域地方計画をレビューしてみました。

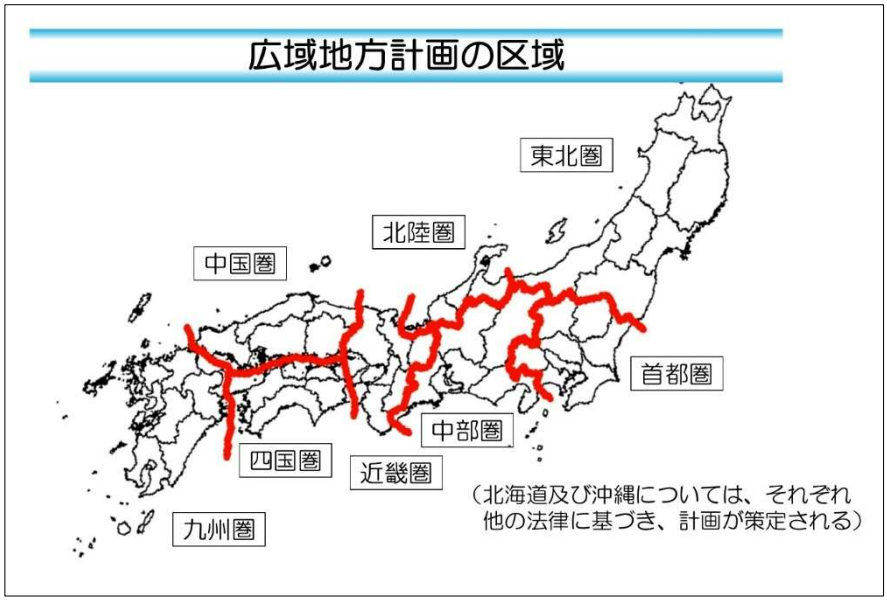
第三次国土形成計画では、近畿圏について次のように述べております。

近畿圏

近畿圏は、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県及び和歌山県の２府４県の区域からなる。三大都市圏の中では最も西側に位置し、中部圏、北陸圏、中国圏に加え、瀬戸内海をはさんで四国圏と隣接している。

日本海、太平洋、瀬戸内海に面するほか、日本最大の湖である琵琶湖を有する。切迫する南海トラフ地震による甚大な被害のほか、大都市中心部に広がるゼロメートル地帯や地下街等は水害のリスクを抱えている。

図１　広域地方計画の区域



出典：国土形成計画（広域地方計画）について

圏域人口は約2,040万人で首都圏に次いで多いが、2040年までの人口減少率は三大都市圏で最も高くなることが見込まれている。域内総生産は約89兆円で我が国第二の経済圏である。すぐれた技術力を有する特色あるものづくり企業や、医療、エネルギー分野を始めとする大学、研究開発機関が集積している。

今後、世界に誇る歴史・文化を始め、個性的で多様な地域からなる圏域独自の魅力に更に磨きをかけるとともに、リニア中央新幹線の開業等による日本中央回廊の西の拠点として、世界を魅了し続けるために、大坂・関西万博を契機とした世界からのゲートウェイ機能の強化や、イノベーションの創出による産業競争力の強化、脱炭素技術の開発によるカーボンニュートラルの実現への貢献等が図ることが求められる。

関西広域地方計画　概要

ー快適で豊かな暮らしを目指し“歴史とイノベーションによるアジアとの対流拠点”ー

平成28年３月　国土交通省

はじめに

・計画の意義

我が国における本格的な人口減少社会の到来への対応、切迫する巨大災害や急速に進むインフラの老朽化に対する取組、世界の人口が引き続き大幅に増加する中での食料、水、エネルギー等の安定的な確保に向けた取組は、待ったなしの状況である。

＜中略＞

本計画は近畿が直面している様々な課題や危機感を共有するとともに、適切な役割分担の下、圏域全体の発展と魅力ある暮らしの実現に向けて取り組むべき方向性を示すものであり、ひいては我が国全体の発展と魅力ある国土の形成を目指すものである。

・計画の位置付け及び計画の対象区域

本計画は、国土形成計画法第9条に基づき、国土交通大臣が定める広域地方計画であり、近畿圏（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県及び和歌山県の2府4県の区域）を対象とする。

・計画期間

本計画の期間は、国土形成計画（全国計画）を踏まえ、2050年を見通しつつ、今後概ね10年間とする。

【目次】

１部　関西の現状と課題

１－１．関西の地域構造

・北は日本海、南は太平洋に面している
・緑豊かな山々、世界屈指の美しい島並み
・我が国最大の湖、琵琶湖
・京阪神間に人口が集中
・大阪平野の中心、大阪にゼロメートル地帯が広がる

１－２．関西の特徴

・歴史が深く息づき、個性的で多様な地域からなる
・産業等の諸機能の集積が進んでいる
・最先端の技術力で我が国を牽引する
・アジアとのつながりが深い
・人と自然のつながりが深い関西

１－３．関西を取り巻く現状と課題

・本格的な人口減少社会の到来と急激な高齢化の進展
・関西の相対的地位の低下と東京一極集中からの脱却
・外国人旅行者の急激な増加
・ポテンシャルを生かし切れていない京阪

神大都市圏
・地方都市の活力低下と農山漁村の集落機能の低下
・関西を脅かす自然災害リスク
・社会資本の老朽化
・関西を巻き込む大きな社会の潮流変化（食糧・水・エネルギーの制約、ICTの劇的な進歩）

２部　関西の目指す姿と戦略
～国土形成に果たす開催の役割～

２－１　アジアのゲートウェイを担い、我が国の成長エンジンとなる圏域
・成長エンジンとなる新たな産業の創出
・国内外のネットワーク機能の強化による対流促進
・イノベーションを支え、創造性豊かな人材を集積する環境整備

２－２．日本の歴史・伝統文化が集積し、世界を魅了し続ける圏域
・歴史・伝統文化の継承・活用と新たな地域資源の発掘
・広域観光・国際観光の推進
・アジア・世界への情報発信力の強化

２－３．快適で豊かに生き生きと暮らせる圏域
・快適で暮らしやすい都市環境の形成
・地方都市の再生
・過疎化する集落の維持・再生
・どこにいても基本的な生活サービスが享受できる環境の整備
・地域の担い手を確保する環境づくりの推進

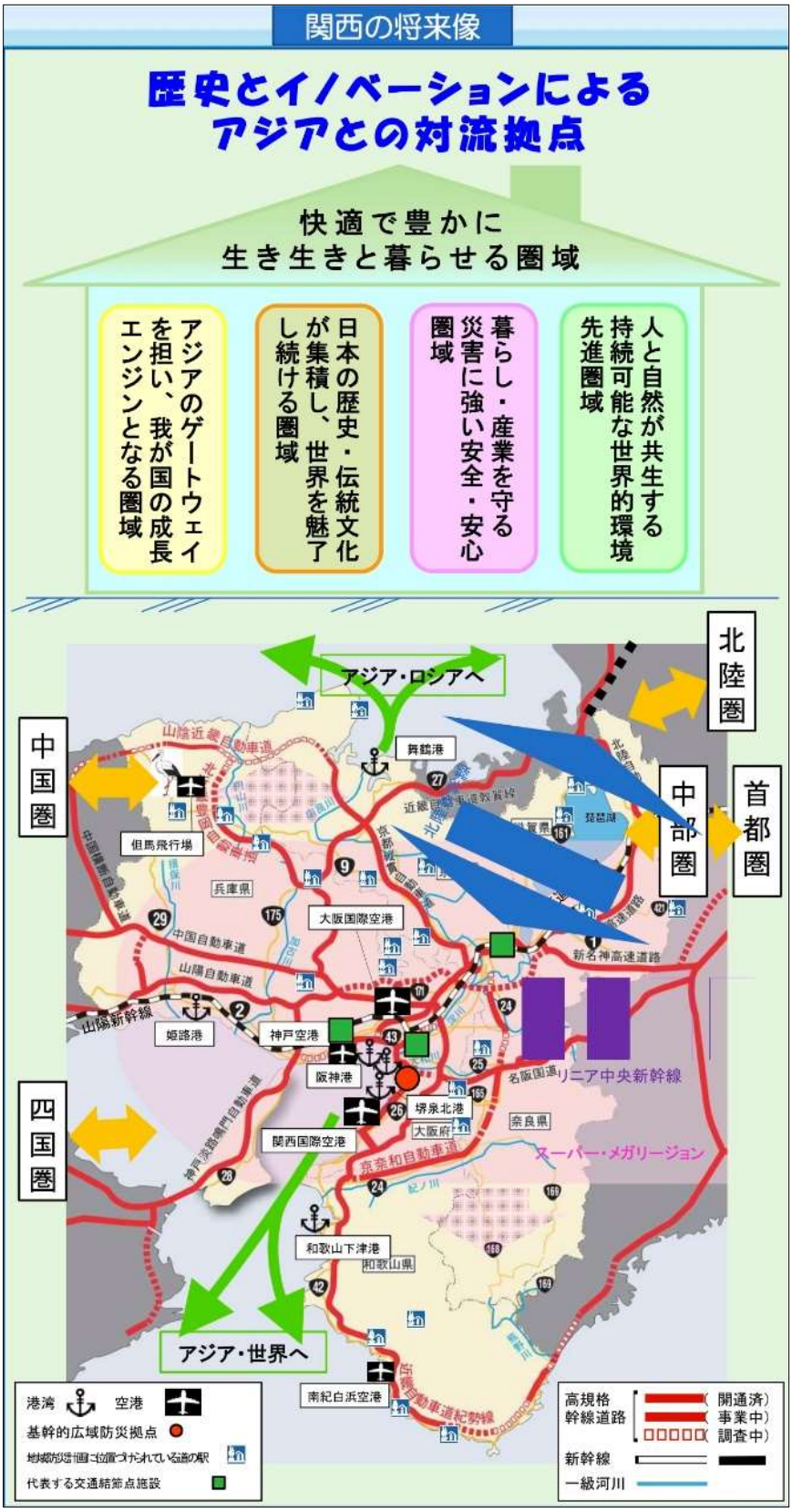
２－４．暮らし・産業を守る災害に強い安全・安心圏域
・南海トラフ巨大地震等への備え
・災害に強くしなやかな国土の構築
・社会資本の老朽化対策の推進
・首都圏の有する諸機能のバックアップ等
・日常生活の安全・安心

２－５．人と自然が共生する持続可能な世界的環境先進圏域
・都市環境の改善
・農山漁村地域の環境保全
・健全な流域圏と生態系の保全・再生
・自然との共生の推進
・循環型社会の構築
・環境・エネルギー技術での世界貢献
・地球温暖化対策の推進

３部　主要プロジェクト
３－１．関西ゲートウェイ+ネットワークプロジェクト
３－２．関西成長エンジンプロジェクト
３－３．歴史・文化・おもてなしプロジェクト
３－４．京阪神燦々まちづくりプロジェクト
３－５．地方都市活力アッププロジェクト
３－６．農山漁村いきいきプロジェクト
３－７．関西強靭化・防災連携プロジェクト
３－８．環境共生プロジェクト

４部　計画の効果的推進
４－１．投資の重点化・効率化
４－２．多様な主体の参加と連携・協働
４－３．隣接圏域との連携
４－４．他の計画・施策との連携
４－５．計画の進捗状況の把握

図２　歴史とイノベーションによるアジアとの対流拠点



出典：近畿圏（概要版＋プロジェクト参考資料）

図３　主要プロジェクトの構成

出典：近畿圏（概要版＋プロジェクト参考資料）

図４　関西ゲートウェイ+ネットワークプロジェクト

出典：近畿圏（概要版＋プロジェクト参考資料）

図５　関西成長エンジンプロジェクト

出典：近畿圏（概要版＋プロジェクト参考資料）

図６　歴史・文化・おもてなしプロジェクト

出典：近畿圏（概要版＋プロジェクト参考資料）

図７　京阪神燦々まちづくりプロジェクト

出典：近畿圏（概要版＋プロジェクト参考資料）

図８　地方都市活力アッププロジェクト

出典：近畿圏（概要版＋プロジェクト参考資料）

図９　農山漁村いきいきプロジェクト

出典：近畿圏（概要版＋プロジェクト参考資料）

図10　関西強靭化・防災連携プロジェクト

出典：近畿圏（概要版＋プロジェクト参考資料）

図11　環境共生プロジェクト

出典：近畿圏（概要版＋プロジェクト参考資料）

関西（近畿）広域地方計画についての感想

関西（近畿）広域地方計画は、平成28（2016）年３月策定で、概ね10年（2026年）を目指したもの。第３次国土形成計画を受けて、今後新しい関西（近畿）広域地方計画の策定が待たれます。

１．歴史

関西は日本の古代・中・近世・近現代を貫く独自の文化軸を持っています。

古代における飛鳥文化、藤原京遷都（694年）、平城京（710年）、平安京（794年）以来、明治元年（1868年）にようやく江戸城を皇居として首都移転がなされるまで、千年余、日本の関西（京都）は首都を保ってきました。

“都”の所在した奈良や京都は、幸いにも太平洋戦争の空襲を免れ建設当時の原形を保っております。

最近の話題として、文化庁が京都に移転してきました（３月）。

近世から近現代における大阪は、また独自な都市発展を遂げています。大阪城に示された豊臣時代。産業革命以来の港湾都市、大阪、神戸の発展が現代に続いています。2025年、大阪を会場に“万博”も企画されています。

現在、広く使われている「関東」「関西」の呼称は、1600年、西軍（豊臣方・石田三成）、東軍（徳川家康）の歴史的決戦の場「関ヶ原」（現在の岐阜県南西端・関ヶ原町）の西と東、関西・関東にあるとされています。

２．人口減少にどう対応するか

2016（平成28）年に策定した関西（近畿）広域圏計画では、2023年の人口を2,100万人としていましたが、実績値は2,040万人となりました。日本の人口は、今後劇的に減少すると

予想されておりますが、関西圏の人口は今後10年で2,000万人以下と予測されます。少子高齢化にいかに対応するかは、関西の未来のかたちづくりの中心のテーマに違いありません。

３．道州制・関西州の州都

関西（近畿）広域地方は、関東広域地方に並ぶ日本の二大広域地方空間です。

21世紀の日本のかたちとして、道州制を想定した場合の関西の州都として、まず考えられるのは大阪です。2025年開催の大阪・関西万博跡地を活用する案はどうか。

2010年頃には「大阪都」構想もありました。あるいは日本最大の湖、琵琶湖を借景とする場所に、関西の州都を置く案も考えられます。「州都」の場所探しは、関西の未来のかたちを多角的に見ることでもあります。

４．アジア・世界への対流拠点としての役割の増加

21世紀、地球交流時代、外国人の受け入れも含めて、アジア、グローバルサウス、世界の対流拠点としての役割がますます大きくなると期待されます。

５．阪神38年ぶり日本一

今年、2023年のプロ野球は、セ・リーグ、阪神タイガース、パ・リーグ、オリックス・バファローズがそれぞれ優勝しました。そして11月初旬、この２チームによって、今年のプロ野球日本一を決める「SMBC日本シリーズ2023」が戦われました。

野球ファンをうならすゲームが続き、両チームともに３勝３敗となり、第７戦が11月５日、京セラドームで行われました。結果、阪神タイガースが７対１でこれを制し、今年の日本一に輝きました。

オリックスは前回、前々回と二度日本一になっていますが、阪神の日本一は38年ぶりで２回目とのことです。大阪ドーム、熱狂する満員のファンの中、岡田彰布監督が幾度も胴上げされていました。野球界において関東勢は押され気味の様子です。

写真１　38年ぶりの日本一を決め、胴上げされる阪神

出典：朝日新聞　2023.11.6

【参考資料】

国土形成計画（広域地方計画）（平成28年３月29日大臣決定）

国土形成計画（広域地方計画）について

https://www.mlit.go.jp/common/001124958.pdf

近畿圏広域地方計画

https://www.mlit.go.jp/common/001124886.pdf

広域地方計画リーフレット

https://www.mlit.go.jp/common/001175472.pdf

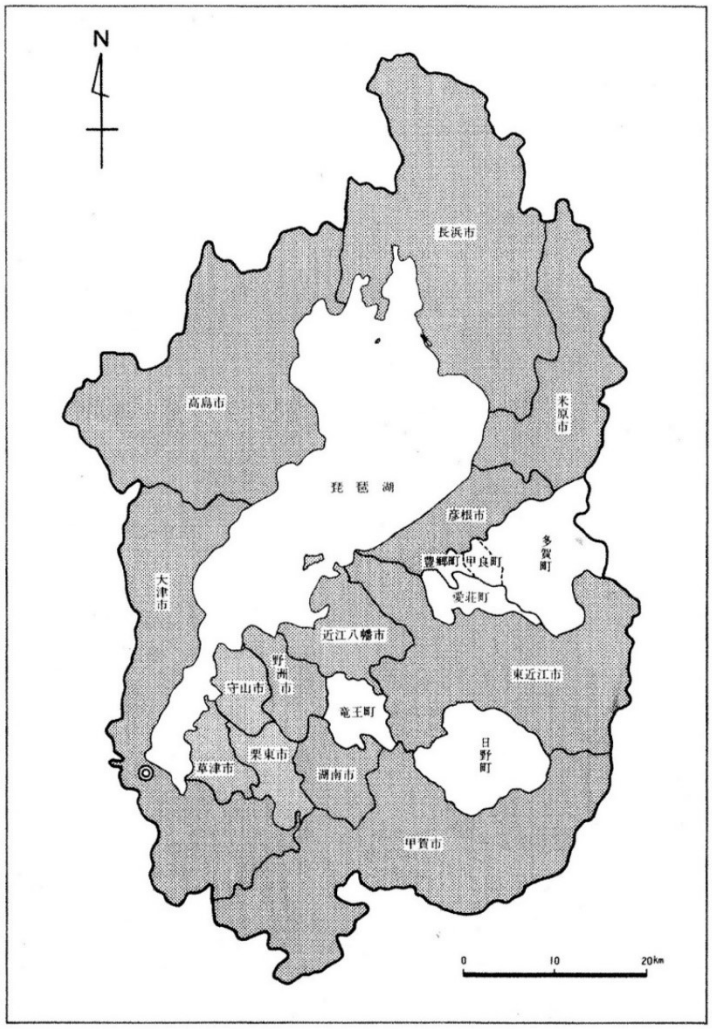
近畿圏（概要版＋プロジェクト参考資料）

https://www.mlit.go.jp/common/001124953.pdf

『データでみる県勢 2023』（公益財団法人）矢野恒太記念会 第32版 編集・発行　2022.12.1

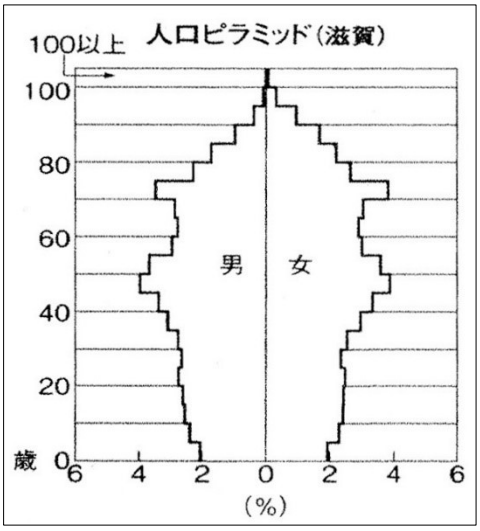
2023.11.14

図12　滋賀県の市町



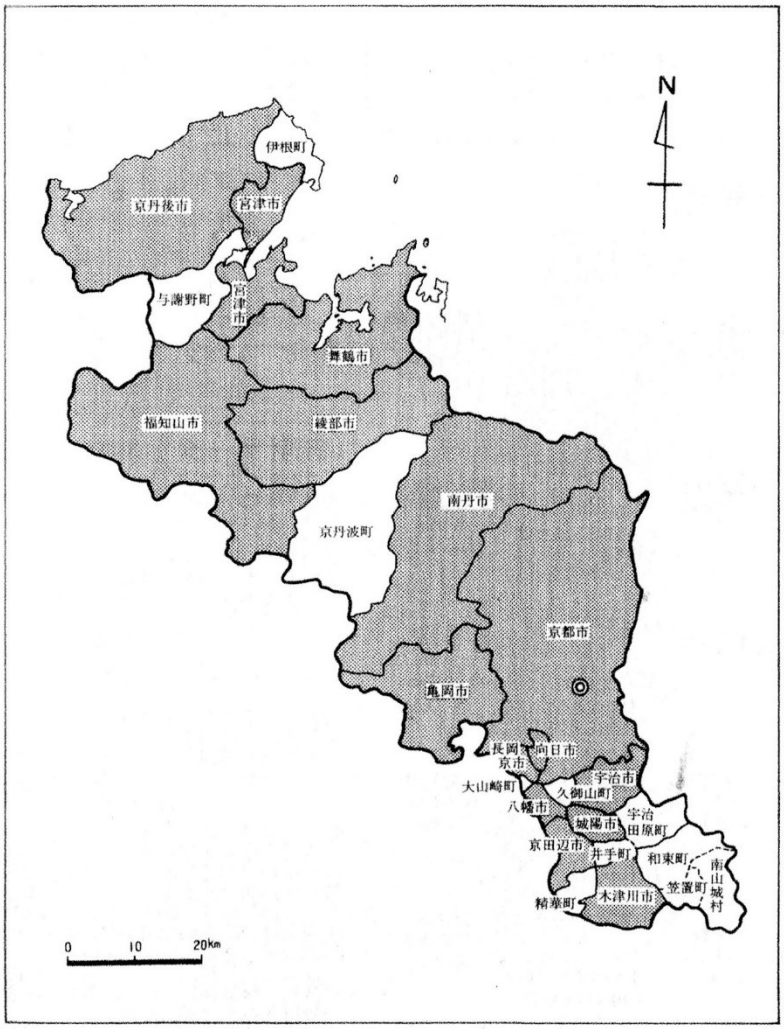
出勤：『データでみる県勢2023』

図13　人口ピラミッド（滋賀県）



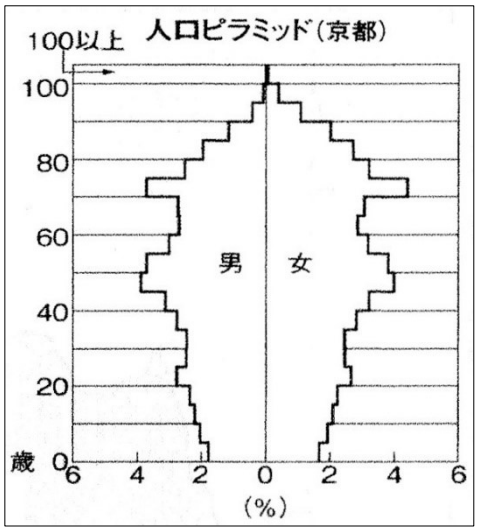
出勤：『データでみる県勢2023』

図14　京都府の市町村



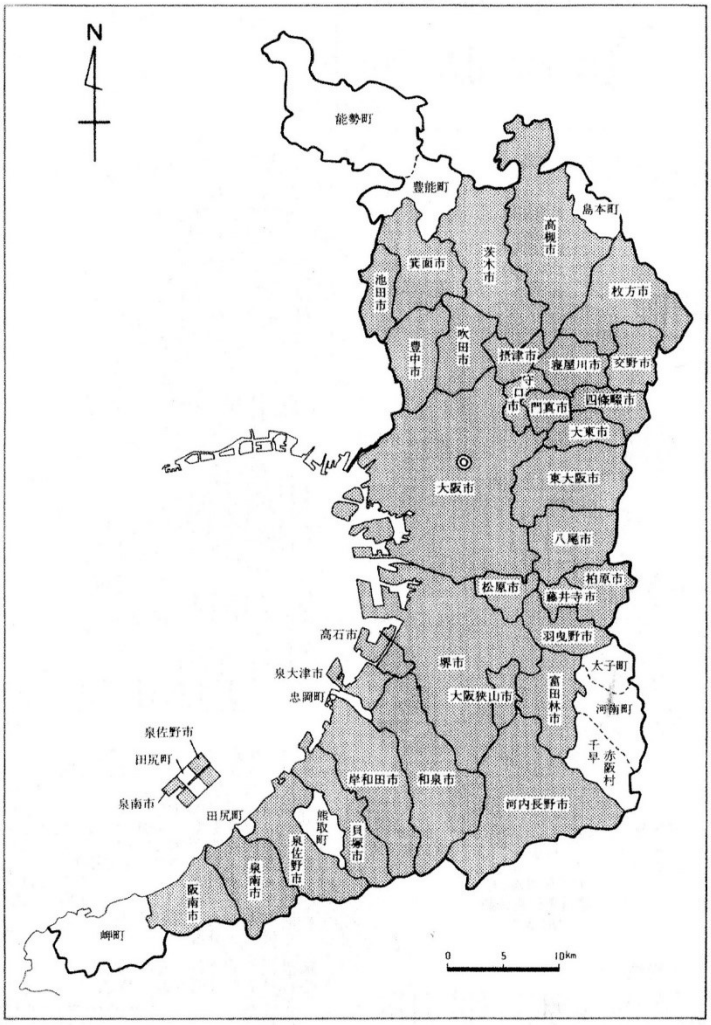
出勤：『データでみる県勢2023』

図15　人口ピラミッド（京都府）



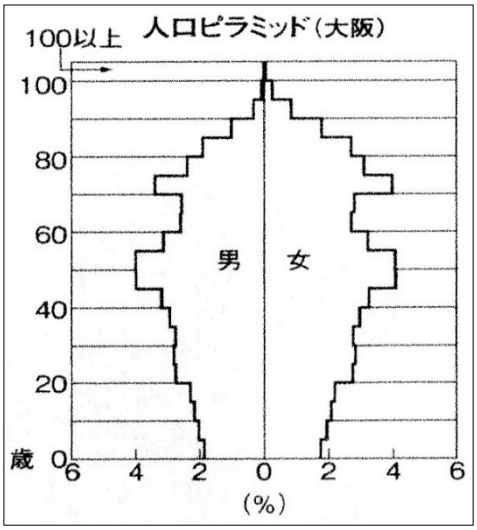
出勤：『データでみる県勢2023』

図16　大阪府の市町村



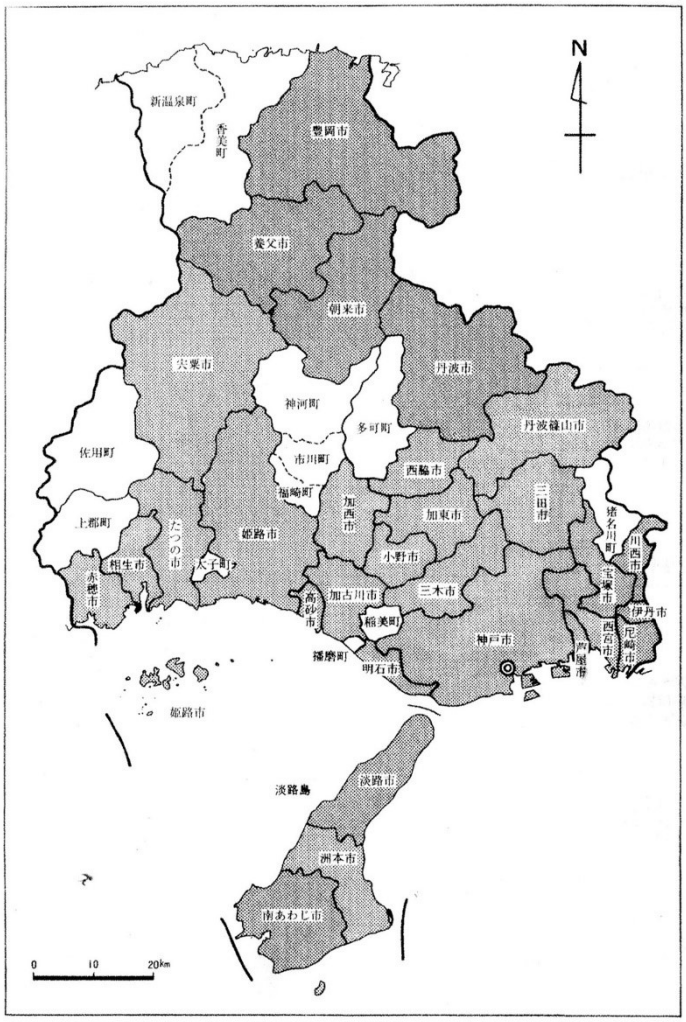
出勤：『データでみる県勢2023』

図17　人口ピラミッド（大阪府）



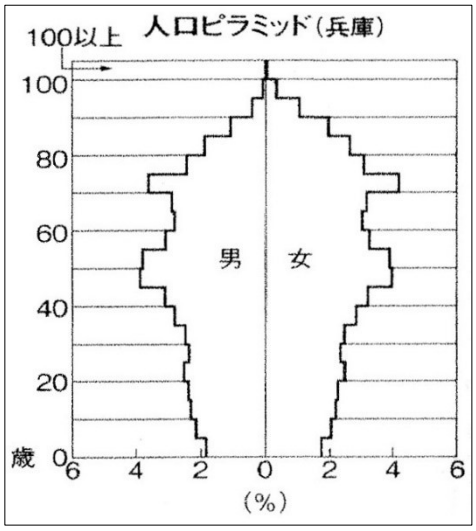
出勤：『データでみる県勢2023』

図18　兵庫県の市町村



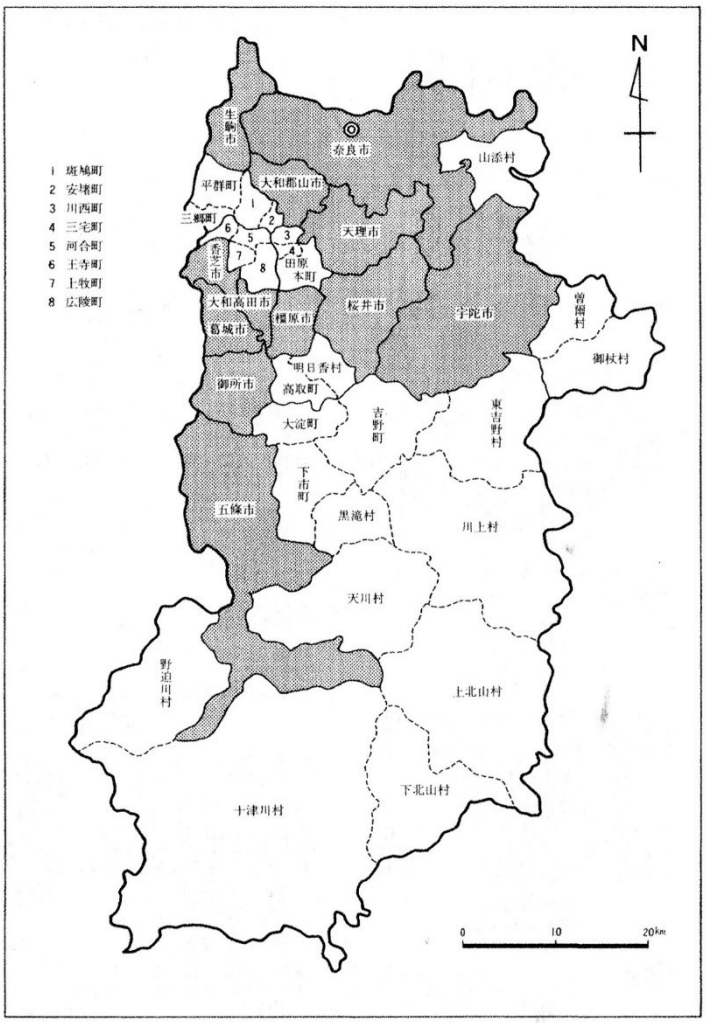
出勤：『データでみる県勢2023』

図19　人口ピラミッド（兵庫県）



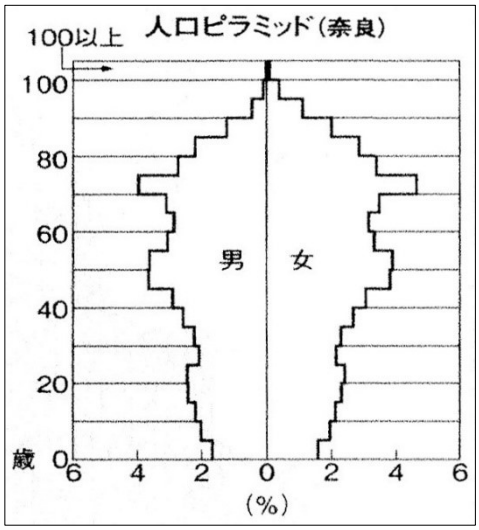
出勤：『データでみる県勢2023』

図20　奈良県の市町村



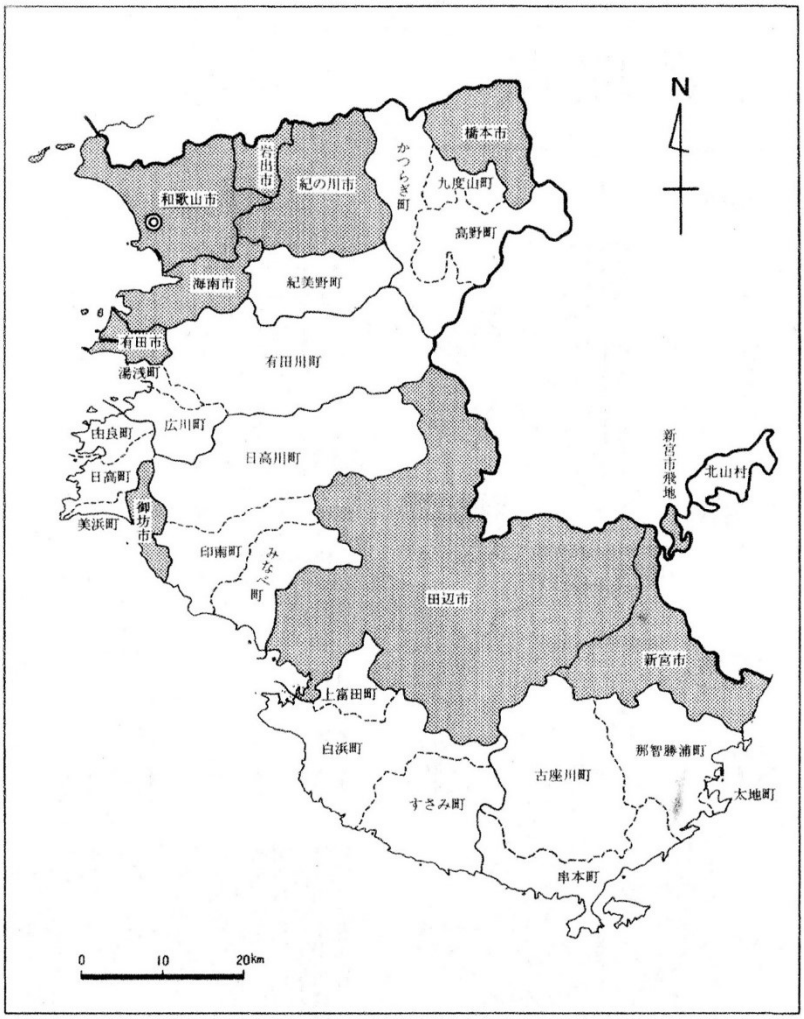
出勤：『データでみる県勢2023』

図21　人口ピラミッド（奈良県）



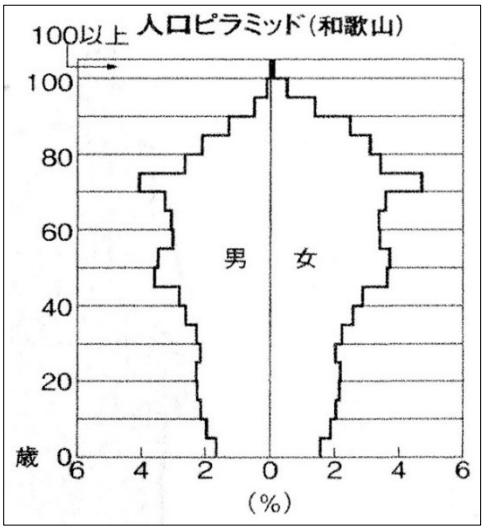
出勤：『データでみる県勢2023』

図22　和歌山県の市町



出勤：『データでみる県勢 2023』

図23　人口ピラミッド（和歌山県）



出勤：『データでみる県勢 2023』

図24　関西（近畿）圏

データ出典『データでみる県勢 2023』矢野恒太郎記念会 編集・発行

滋賀県　：面積 4,017㎢、人口 141万509人、人口密度 351.1人／㎢

京都府　：面積 4,612㎢、人口 256万1,399人、人口密度 555.4人／㎢

大阪府　：面積 1,905㎢、人口 880万6,114人、人口密度 4621.8人／㎢

兵庫県　：面積 8,401㎢、人口 543万2,413人、人口密度 646.6人／㎢

奈良県　：面積 3,691㎢、人口 131万5,339人、人口密度 356.4人／㎢

和歌山県：面積 4,725㎢、人口 91万3,599人、人口密度 193.4人／㎢